

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

子供

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・よりよい学校づくりについて考えたり、講演を聴いたりすることを通して、課題に気づき、解決していこうとする態度を育てる。
- ・人間関係プログラムの実践を通して、コミュニケーションスキルの向上とよりよい人間関係づくりをしていこうとする態度の育成を図る。

実施した内容

- ・加茂中をよりよくするためにどうすればよいかを考える人権集会を行った。
- ・いじめ問題や差別解消に向けて、全国で活動しておられる講師を招き、いじめや差別について考える人権講演会を実施した。
- ・人間関係づくりプログラム「かもとくタイム」を週1回実施した。

工夫した点

- ・人権集会では事前にアンケートを実施し、その結果を紹介し、加茂中生徒のよさや課題を自分たちのこととしてとらえることができるようにした。また、小グループで話し合う活動を取り入れ、話し合いの結果を掲示することで多様な考えにふれることができるようにした。
- ・人権講演会は、講話だけでなく歌を歌っていただき、いじめや差別を許さないというメッセージがより強く、生徒に伝わるようにした。
- ・「かもとくタイム」はマニュアルを作成し、全教員がどの学級でも指導できるようにした。

他教科との関連

- ・各学年の道徳で、C-(11)公平、正義、社会正義 についての教材をみつかった。

事業成果

- ・知識的側面：いじめや差別に主体的に向き合う大切さを理解したり、人間関係づくりに関する知識を得たりすることができた。
- ・価値・態度的側面：人と関わる活動を楽しむとともに、課題解決に向けて考え、話し合う姿が見られた。
- ・技能的側面：個性を認め合い、つながりあおうとする技能やいじめや差別に気づき、集団の力で解決しようとする技能が高まった。

# 令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

女性（デートDV防止研修）

対象学年・  
取り扱った教科等

中学 3 年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・男女がお互いの尊厳を重んじ、自立した対等な関係づくりをする意識を育てる。
- ・性別に関する偏見や先入観をなくし、自他尊重の精神を養う。

実施した内容

- ・研修会（講師：デートDV予防教育コーディネーター）
- ・グループワーク

工夫した点

- ・外部講師の先生を招き、市内の高校の養護教諭や市の男女共同参画センターの方にも授業の様子を見ていただいた。
- ・学年総合として実施し、いろいろな意見が活発に出るようにした。
- ・グループでの話し合い活動の内容を、学年全体に広げ、いろいろな考え方に触れさせた。

他教科との  
関連

- ・中学 1 年生の保健体育「性とどう向き合うか」の学習の中で、デートDVなどについて取り扱っている。今回は、既習事項を振り返らせながら、指導を行った。

事業成果

- ・知識的側面：デートDVの具体的な事象や対処方法について理解した。
- ・価値・態度的側面：性別にかかわらず、一人の人間として対等な立場で関わることの大切さを身に付けた。
- ・技能的側面：お互いを認め合って相手と対等な関係を築き、自分も相手も被害者にも加害者にもならないつきあい方をしようという意識が高まった。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・福祉の意義や高齢者の方の実情を知ることで、相手の立場になって考え、行動しようとする気持ちを高める。
- ・地域で福祉活動をしておられる方の話を通して、自分たちにできることは何かを考え、実践しようとする意欲を高める。

実施した内容

- ・地域福祉、ボランティア、高齢者福祉について、市の社会福祉協議会、地元のまちづくり協議会の方から学ぶ。（4時間）

工夫した点

- ・地元のまちづくり協議会とのコラボレーションとして、高齢者の方へ暑中見舞いを書くボランティア活動を実施。

他教科との  
関連

- ・道徳科において、高齢者施設でのボランティア体験を通して、自分の考えを伝えつつ、分かり合い、他者に学ぼうとする大切さについて考えた。

事業成果

- ・知識的側面：「ふ・く・し」の意味について理解を深めた。
- ・価値・態度的側面：家族や友だちなど、身のまわりの人へ温かみのある言動やふるまいをするようになった。
- ・技能的側面：地域の一員としてボランティア活動に関心をもち、進んで参加しようとする生徒が増えた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

障がい者

対象学年・  
取り扱った教科等

中学2年生・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・障がい者の方の実情を知ること、相手の立場になって考え、行動しようとする気持ちを高める。

実施した内容

- ・障がい者福祉、アイマスク、高齢者体験について、市の社会福祉協議会の方から学ぶ。(2時間)

工夫した点

- ・アイマスク、装具を身に着けた高齢者体験を生徒同士で体験することで、より相手への理解を深められるようにした。

他教科との  
関連

- ・道徳科において、車椅子テニスの選手の話を通して、自分の弱さを自覚し、それを克服しようとする強さをもって、人間として気高く生きようとする大切さについて考えた。

事業成果

- ・知識的側面：具体的に何が分かりにくく、識別しづらいかを学んだ。
- ・価値・態度的側面：学校生活において、色づかいや文字の大きさなどの様々な物について、学習を踏まえたものの見方・考え方をしようとしていた。
- ・技能的側面：黄色の色づかいや文字の大きさに注意して授業等ではプレゼンテーションを行った。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

同和問題

対象学年・  
取り扱った教科等

中学2年生・社会科

目標・人権  
教育のねら  
い

- ・同和問題をはじめとする様々な差別の実態を知り、その背景や問題点を理解し、人権尊重の立場から問題を解決しようと努力する態度や実践力を養う。

実施した内容

- ・中世以来の特定能力集団に起源をもち、江戸時代厳しく差別を受けた人々は、営々と自分たちの暮らしを守っていたこと。
- ・身分制社会の中での役負担を果たしながら社会に必要な多くのものをつくったり、芸能を伝承するなどさまざまな仕事をしていた人々もいたこと。
- ・為政者が政治的につくった差別ではなく、人々の間にあった恐れ、穢れの感情から来る排除観が差別意識をつくりあげていったこと。

工夫した点

- ・なるべく生徒がイメージをつかみやすいよう資料の精選に努め、提示のしかた等も工夫する。

他教科との  
関連

- ・総合的な学習の時間「人権集会」

事業成果

- ・知識的側面：当時の人々に穢れや畏れの気持ちがあったことを知る。幕府や藩は人々の差別意識を利用して、支配統制していったことを知る。
- ・価値・態度的側面：「えた」身分、「ひにん」身分は、差別を表す言葉であり、身分制度がなくなった今、学校での勉強や差別をなくしていく取り組み以外では絶対にしようしないことを確認する。
- ・技能的側面：資料の読み取りについては、グループワークを用いて考えさせた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・  
取り扱った教科等

中学3年生・社会科

目標・人権  
教育のねら  
い

- ・アイヌ民族をめぐる問題の事例をもとに、国内の人権上の様々な課題を国際的な動きと関連づけて適切に表現する。
- ・アイヌ民族に対する政策の問題点を挙げ、問題点の解決に向けどのようにすればよいか、公正の観点から適切に表現する。

実施した内  
容

- ・先住民族としてのアイヌ民族の権利の保障について、国際的な動向を踏まえて考えさせる。
- ・アイヌ民族の権利保障を実現するにはどうすればよいか、自分の考えをまとめさせる。

工夫した点

- ・グループでの話し合い活動を取り入れる。
- ・話し合いがしやすい支持的な風土をつくることに努める。

他教科との  
関連

- ・2年社会〈歴史的分野〉「アイヌ文化とその継承」

事業成果

- ・知識的側面：従来の政策で奪われてきたアイヌ民族の権利が「先住民族としての権利」として一般化されてきたことを理解した。
- ・価値・態度的側面：アイヌ民族の権利保障を実現するためにはどうすればよいかを、自分の言葉で表現しようとした。
- ・技能的側面：問題点の解決に向けどのようにすればよいか、公正の観点から表現しようとした。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

中学1年生・道徳

目標・人権教育のねらい

- ・ほかの国々の人々や文化に対する理解を深め、外国人に対する差別や偏見を取り除き、互いに尊重しようとする実践意欲を高める。
- ・日本にいる外国人の「思い」「困り感」等について理解を深める。

実施した内容

- ・インドネシアの留学生を通し、日本とインドネシアには食習慣やマナーの違いがあることに気づかせる。
- ・相手の文化を学ぶことで、違いは違いとして尊重することの大切さを理解させる。

工夫した点

- ・イスラム教徒は食べ物などを選ぶとき、「ハラールであるか」を重視する。違う文化を持つ国の生活と自分自身の生活を比較することで、外国人の人権について考えられるようにした。

他教科との  
関連

- ・社会科にて、様々な文化の違いについて学んだ。（地理）

事業成果

- ・知識的側面：日本と外国との文化の違いについて理解する。
- ・価値・態度的側面：自他の文化を尊重しあい、よりよい関係を築いていこうとする意見や発言が見られるようになった。
- ・技能的側面：相手の思いや願いを受け止めることができ、自分の考えも伝えることができるコミュニケーション力を身につけることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・  
取り扱った教科等

中学3年生・道徳

目標・人権教育のねらい

- ・「ハンセン病」の正しい知識と歴史を学ぶことによって、「ハンセン病」患者への偏見や思い込みを取り除き、共に生きる意識を育てる。
- ・さまざまな人権侵害に対して、適切な行動をとることができる意欲や態度を養う。

実施した内容

- ・DVDを視聴することによって、ハンセン病についての正しい知識や歴史を知る。
- ・「ハンセン病問題」が抱えている課題や解決策について考え、グループごとに自分たちができることを話し合う。

工夫した点

- ・学校公開日に合わせて授業を実施し、保護者や地域の人にも「ハンセン病」について理解してもらったり、話し合い活動を見てもらったりした。
- ・グループでの話し合い活動の内容を、学級全体に広げ、いろいろな考え方に触れさせた。

他教科との  
関連

- ・社会科で、基本的人権について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：誤った認識によって差別を受けて苦しんできた人たちがいることを知り、「ハンセン病」について正しい知識や歴史を学んだ。
- ・価値・態度的側面：間違った情報に振り回されず、正しい知識に基づいて行動していこうとする姿が見られた。
- ・技能的側面：差別の解消に向け、グループでの話し合い活動を通して、考えを深めた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

犯罪被害者等

対象学年・  
取り扱った教科等

全学年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・犯罪被害者やその家族・遺族は、被害に遭ったことで大きなショックを受け、長年の間苦しみ、悲しんでいることを理解する。
- ・犯罪被害者への支援を社会全体で行っていかうとする取り組みが進んでいることを理解する。

実施した内容

- ・「亡くなった娘からのメッセージ」という演題で、「命の大切さを学ぶ教室」を全校生徒・希望する保護者対象に実施した。飲酒運転の車両による交通事故で娘さんを亡くされた講師の話聞き、交通事故被害者の方々が作成したオブジェを鑑賞した。鑑賞時には、講師の方と生徒が直接交流することもできた。

工夫した点

- ・島根県被害者サポートセンターの「命の大切さを学ぶ教室」を活用し、交通犯罪被害者の遺族の方のお話を直接聞くことで、課題について深く考えさせた。

他教科との  
関連

- ・各学年の道徳で、D-(19)生命の尊さ についての教材を扱った。

事業成果

- ・知識的側面：多年にわたって被害に苦しむ人が多数存在することを理解することができた。
- ・価値・態度的側面：人権課題について学習しようとする意欲を高めることができた。
- ・技能的側面：イベントに参加して交流するなど、さらに理解を深める方法を見つけることができた。

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

中学全学年・総合的な学習の時間

目標・人権教育のねらい

- ・インターネット利用によるトラブルや人権問題について学び、法やきまりの意義を理解する。
- ・自他の権利を重んじる自覚と判断力を養う。

実施した内容

- ・講師によるインターネットの適切な利用を考える学習会を実施し「ネットいじめ」「ヘイトスピーチとどう向き合うか」などについて考えさせた。

工夫した点

- ・人権と表現の自由について学習したり、具体的な事例を用いて当事者側に立って考えたりすることで、今後、SNSを含めた自分の言動をどうすればよいかについて、考える時間を設定した。

他教科との  
関連

- ・道徳にて、SNSなどの使い方について考えた。

事業成果

- ・知識的側面：インターネット（SNS等）の利点と気をつけなければならない点について理解する。
- ・価値・態度的側面：相手のこと（見る人）を十分に考えて、入力（投稿等）を行おうとする意見や発言が見られるようになる。
- ・技能的側面：SNS等の利用が慎重に行うことができる。（情報の管理、正しい情報かどうか留意することができる。）

# 令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

島根県

学校名

雲南市立加茂中学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・  
取り扱った教科等

中学1、2年生・保健体育科

目標・人権教育のねらい

・性の多様性について正しい知識を学び、誰もが自分らしく生きるためにはどうしたらよいかを考える。

実施した内容

・プレゼンテーションを用いて、性の多様性についての基礎知識や性同一性障がい者の苦しみについて理解を深める。  
・資料「みきという女の子」を読み、みきさんがどのように決断したかを考えたり、みきさんが加茂中学校に入学する際の課題、解決方法、自分たちにできることは何かを考える。

工夫した点

・事前アンケートを実施し、生徒の実態を紹介したり、資料「みきという女の子」を活用したりすることで、生徒が身近な事柄として、課題について深く考えることができるようにした。  
・小グループでの話し合い活動を取り入れ、多様な考えにふれることができるようにした。

他教科との  
関連

・特別活動で「男女が協働する社会」（1年）、「共生社会形成のために」（2年）を学習した。

事業成果

・知識的側面：さまざまな性があることや自己の性について悩み、苦しんでいる人たちの実態を知り、正しい知識を身につけた。  
・価値・態度的側面：悩みを抱えている人の立場になって、自分たちができることは何かを考える姿が見られた。  
・技能的側面：グループでの話し合いを通して、学校のルールや行事の内容における課題や解決方法を考えた。